

1. 開催概要

展覧会名	ウィーン・モダン クリムト、シーレ 世紀末への道	
開催施設名	会期	入場者数
国立新美術館	2019 年 4 月 24 日～8 月 5 日	236,748 人 (内覧会等を含む)
国立国際美術館	2019 年 8 月 27 日～12 月 8 日	137,827 人 (内覧会等を含む)
●開催概要 本展は、19 世紀末から 20 世紀初頭にかけて、オーストリアの首都ウィーンで花開いた芸術文化を、絵画、工芸、建築、ファッションなどを、東京展約 400 点・大阪展約 300 点の作品で紹介。ウィーン世紀末を代表する巨匠グスタフ・クリムトの傑作『エミーリエ・フレーゲの肖像』をはじめ、エゴン・シーレや建築家オットー・ヴァーグナーらの傑作など、ヨーロッパ有数の歴史博物館ウィーン・ミュージアムが誇る貴重な作品を中心に、歴史をたどりながらひも解き展覧した。 その質・量ともに充実した機会の実現について、「優れた構成と圧倒的な作品量」と評するなど専門家からの評価も高く、メディアでは「芸術新潮 12 月号」(新潮社)、「日経おとなの OFF1 月号」(日経 BP 社)などで大きく特集された。また、一般の来場者からも「作品数、内容ともに充実していた」「歴史を追ってウィーン世紀末をたどる構成で、理解が深まった」など感嘆の声が多く聞かれた。 日本とオーストリアの修好通商航海条約締結 150 周年の記念行事として位置付けられた本展は、まさに日本とオーストリアの文化の架け橋となる役割を果たした。		

2. 美術品補償制度の活用による国民的利益に関する取組結果

※申請時に見込んだ軽減額約 2270 万円を別紙のとおり還元した(別紙参照)。

3. 事故の有無(軽微な事故、ヒヤリハット事例も含む)

なし

4. 安全配慮に関する特別の対応

- ・往復の輸送便にはウィーン・ミュージアムのクーリエが随行し、作品の安全に細心の注意を払った。
- ・ウィーン・ミュージアムでの梱包時、国立新美術館と国立国際美術館での開梱・再梱包時、およびウィーン・ミュージアムに返却された際の開梱時の各段階でコンディション・チェックを行い、ウィーン・ミュージアムのクーリエが調書へ記入・署名を行った。
- ・作品輸送時や展示・撤去時には必ず主催者スタッフが立ち会った。

5. 紹介事例・今後の改善点等

本制度の適用によって、1900 年を中心にウィーンの文化を一望できるコレクションを有するウィーン・ミュージアムの所蔵作品を中心に、近年借用が難しくなったといわれるクリムトやシーレの油彩画が複数出品されるほか、世界的にも貴重なクリムトのデッサン画も多数展示できたことは、「広く国民にすぐれた美術品鑑賞の機会を提供する」という本制度の趣旨に合致する。

日本とオーストリアの修好通商航海条約締結 150 周年の記念の年に、日本国民に芸術を通してオーストリアの文化・歴史を紹介できたことは意義深く、特に若年層にとって大切な機会であったと考える。

6. 展覧会の収支決算書

主催者名

国立新美術館、読売新聞社

●収入

区分	内 訳	予算額
展覧会収入	【入場料】 大人 1,600円 大学生 1,200円 高校生 800円	万円 28,060 (35,206)
	【図録売上】 公式図録 2,900円×13,173冊	3,820 (4,382)
	ミニ図録 1,400円×10,961冊	1,534 (2,035)
	【関連グッズ売上】 展覧会グッズ ※1	6,134 (783)
	【その他】 音声ガイド	1,668 (1,721)
	【協賛金・寄附金】 協賛金	4,756 (4,000)
その他の収入	【補助金・助成金】	
	【その他】 読売新聞社負担分	9,398 (12,492)
	【補填内容】	0 (0)
赤字		
収入総額		55,370 (60,619)

●支出

区分	内 訳	予算額
企画準備等基本経費	【借用料】	万円 11,283 (11,685)
	【保険料】 ※2	1,190 (819)
	【輸送費】	8,256 (8,103)
	【クーリエ等招聘費】 ※3	1,248 (1,920)
	【図録制作費】 公式図録、ミニ図録 ※4	2,016 (6,600)
	【その他印刷費】 ※4	550 (1,200)
	【企画構成費】 ※4	332 (1,250)
	【その他(交渉費・職員旅費等)】 ※5	290 (700)
	【広告・宣伝費】	6,790 (8,000)
	【展示施工費】 ※6	3,588 (2,000)
設営・運営等会場関係経費	【会場事務費】 * 開会式経費含む	962 (1,000)
	【監視・警備費】	6,919 (7,000)
	【その他】 国立新美術館への収入配分 ※3	5,848 (8,342)
	販売グッズなど手数料 ※1	5,610 (1,000)
	外部委託券売手数料 ※3	488 (1,000)
利益	【利益の使途】	0 (0)
支出総額		55,370 (60,619)

※各区分又は総額において、予算額と決算額において30%以上の開きがある場合は、その理由を別紙(任意様式)に記入

※利益が生じた場合は、その使途を必ず具体的に明記

※特に秘すべき事項がある場合には、公開用資料を別途作成し、適宜区分を整理又は工夫して提出

※1 グッズ購買率が申請時想定を上回ったことに伴う増加

※2 国家補償発効までの追加保険に伴う増加

※3 交渉の結果、来日者が申請時想定を下回ったことに伴う減少

※4 入場者数が申請時想定を下回ったことに伴う減少

※5 現地派遣人員を限定するなど、経費削減に努めたことに伴う減少

※6 展示物の安全と鑑賞性をより高いレベルで両立させるために経費が増加

6. 展覧会の収支決算書

主催者名

国立国際美術館、読売新聞社

●収入

区分	内 訳	予算額
展覧会収入	【入場料】 大人 1,600円 大学生 1,200円 高校生 800円	万円 15,531 22,050)
	【図録売上】 公式図録 ※1 2,900円×1,577冊+2,954円×3,486冊	1,487 2,940)
	ミニ図録 ※1 1,400円×1,313冊+1,426円×3,303冊	654 1,365)
	【関連グッズ売上】 展覧会グッズ ※2	2,855 525)
その他の収入	【その他】 音声ガイド	945 1,155)
	【協賛金・寄附金】 協賛金 ※3	2,228 1,000)
	【補助金・助成金】	
	【その他】 読売新聞社負担分 ※4	322 1,969)
赤字	【補填内容】	0 0)
収入総額		24,022 31,004)

●支出

区分	内 訳	予算額
企画準備等基本経費	【借用料】 万円 6,346 6,573)	
	【保険料】 ※5	669 461)
	【輸送費】	4,644 4,558)
	【クーリエ等招聘費】 ※6	702 1,080)
設営・運営等会場関係経費	【図録制作費】 公式図録、ミニ図録 ※1	1,134 3,625)
	【その他印刷費】 ※7	309 600)
	【企画構成費】 ※7	187 800)
	【その他(交渉費・職員旅費等)】 ※8	54 500)
利益	【広告・宣伝費】	1,602 1,700)
	【展示施工費】	1,771 1,600)
	【会場事務費】 * 開会式経費含む	339 350)
	【監視・警備費】	1,734 1,730)
利益	【その他】 国立国際美術館への収入配分 ※7	3,678 5,827)
	販売グッズなど手数料	427 600)
	外部委託券売手数料 ※7	426 1,000)
	【利益の使途】	0 0)
支出総額		24,022 31,004)

※各区分又は総額において、予算額と決算額において30%以上の開きがある場合は、その理由を別紙(任意様式)に記入
 ※利益が生じた場合は、その使途を必ず具体的に明記
 ※特に秘すべき事項がある場合には、公開用資料を別途作成し、適宜区分を整理又は工夫して提出

※1 図録購買率が申請時想定を下回ったことに伴う減少
 ※2 グッズ購買率が申請時想定を上回ったことに伴う増加
 ※3 大阪展のローカル協賛社が決まったことに伴う増加
 ※4 全体の支出圧縮に伴う減少
 ※5 国家補償発効までの追加保険に伴う増加
 ※6 交渉の結果、来日者が申請時想定を下回ったことに伴う減少
 ※7 入場者数が申請時想定を下回ったことに伴う減少
 ※8 現地派遣人員を限定するなど、経費削減に努めたことに伴う減少

【別紙】2. 美術品補償制度の活用による国民的利益に関する取組結果

	申請時の概算根拠	申請時金額	実際の費用内訳	実費
(1) 入場料の無料化・軽減等	【東京展】高校生の入場料無料デーの実施(会期中の通常開館日12日) ・無料化された入場料: 800円 × 4,800人 = 384万円 ・高校生無料デーの周知にかかる経費 150万円 【大阪展】高校生無料デーの実施(9月中の計7日間) ・無料化された入場料: 800円 × 900人 = 72万円 ・高校生無料デーの周知にかかる経費 10万円	¥6,160,000	【東京展】 2,904,400円 高校生の入場料無料デーの実施(6月12日から24日までの12日間) ・無料化された入場料: 800円 × 443人 = 35万4,400円 ・高校生無料デーの周知にかかる経費 - チラシ制作費 @6円 × 30万部 = 180万円 - 各学校へのDM配送費 @600円 × 一都六県1,250校 = 75万円 【大阪展】 993,600円 高校生無料デーの実施(9月中の計7日間) ・無料化された入場料: 800円 × 267人 = 21万3,600円 ・高校生無料デーの周知にかかる経費 - チラシ制作費 @3円 × 20万部 = 60万円 - 各学校へのDM配送費 @600円 × 近畿地方300校 = 18万円	¥3,898,000
(2) 展示作品の質・量の充実	本展を充実させるため、グスタフ・クリムト《牧歌》およびエゴン・シーレ《ひまわり》を加えることが可能となった。評価額は1300万ユーロ(全体の3.75%)で、生じる経費は以下のとおり。 ・《借用料ほか作品関係費1.82億円+保険料1280万円) × 3.75% = 731万円 ・輸送費、クレート代、その他諸費用 = 190万円	¥9,210,000	【東京展・大阪展共通】 クリムト《牧歌》とシーレ《ひまわり》の2作品の借用料、保険料、輸送費、クレート代等で921万円 〔経費内訳〕 グスタフ・クリムト《牧歌》とエゴン・シーレ《ひまわり》の作品評価額は1300万ユーロ(作品評価額全体の3.75%)。 (全体の借用料ほか作品関係費1.82億円+保険料1280万円 = 1億9480万) × 3.75% = 731万円。 往復輸送費100万円(2作品分)、クレート代60万円(2作品分)、その他諸費用30万円 = 190万円。	¥9,210,000
(3) 教育普及活動の充実	【東京展】 講演会の実施174万円(海外から1人。謝礼: 30万円、交通・宿泊費100万円、運営経費・通訳等: 30万円) 内から2人。謝礼5万円、交通費2万円) ども向け鑑賞ガイド作成費 80万円(原稿料、デザイン制作、印刷、雑費など) 【大阪展】 講演会の実施 170万円(海外から1人。謝礼: 30万円、交通・宿泊費110万円、通訳・雑費等20万円) (国内から1人。謝礼: 5万円、交通・宿泊費: 5万円) ・子ども向け鑑賞ガイド作成費 30万円(原稿料、デザイン制作、印刷、雑費など)	・国・子 ¥4,540,000	【東京展】 2,800,000円 ・ウィーン・ミュージアム副館長で本展監修者のウルズラ・シュトルク氏による講演会(2019年4月24日14:00～15:30) 160万円(謝礼、交通・宿泊費、運営経費・通訳等) ・ミュージシャンの藤井フミヤらによるトークショー(2019年6月14日15:00～16:00) 120万円(企画・運営費、謝礼、交通費、警備監視人件費等) 【大阪展】 1,910,000円 ・ウィーン・ミュージアム副館長で本展監修者のウルズラ・シュトルク氏による講演会(2019年8月27日14:00～15:30) 160万円(謝礼、交通・宿泊費、運営経費・通訳等) ・高校生向け解説講座付き鑑賞鑑賞会 31万円(事務局費、警備監視人件費)	¥4,710,000
(4) オーストリア文化芸術の紹介	【東京展】 ・大使館が推薦するオーストリアの若手音楽家によるコンサート 70万円(企画・運営費、出演者謝礼等) - ウィーンフィルのメンバーによる弦楽アンサンブル 130万円(企画・運営費、出演者謝礼等) - 日本人若手オペラ歌手によるコンサート 60万円(出演者謝礼等) 【大阪展】 ・オーストリア音楽のレクチャーコンサート 20万円(広報宣伝費等)	・ ¥2,800,000	【東京展】 4,352,000円 ・オーストリア人の女優マキシ・ブラーハによる演劇(2019年5月17日18:00～19:00) 140万円(企画・運営費、謝礼、交通・宿泊費、警備監視人件費等) ・ウィーン少年合唱団によるミニートーク&コンサート(2019年4月27日18:00～19:00) 110万円(企画・運営費、謝礼、交通費、調律・ピアノ搬入出経費、警備監視人件費等) ・日本人若手オペラ歌手、小林沙羅による歌曲コンサート(2019年5月2日18:00～19:00) 63万2,000円(謝礼、交通費、調律・ピアノ搬入出経費、警備監視人件費等) ・久元祐子によるベーゼンドルファー社製のピアノコンサート(2019年4月27日18:00～19:00) 61万円(謝礼、交通費、調律・ピアノ搬入出経費、警備監視人件費等) ・山口友由実によるベーゼンドルファー社製のピアノコンサート(2019年5月3日18:00～19:00) 61万円(謝礼、交通費、調律・ピアノ搬入出経費、警備監視人件費等) 【大阪展】 540,000円 ・展覧会レクチャー付きオーストリア音楽コンサート 54万円(謝礼、警備監視人件費、事務局費)	¥4,892,000
合計		¥22,710,000		¥22,710,000